

○ この夏、上位大会出場を果たした部活動が出ています。その内容を部の代表者に紹介してもらいました。

1 なぎなた部〔全国高等学校総合体育大会なぎなた競技大会〕

私たちがなぎなた部は、全国高等学校総合体育大会なぎなた競技大会に出場しました。

私たちは、ひとつでも多く勝つことを目標に大会に臨みました。大会前は練習内容を工夫したり、アドバイスを活発にし合うなど、大会を意識して部員一丸となり、暑い中練習に励みました。結果は予選リーグ敗退となってしまい、悔しい思いがありますが、最後の試合では選手全員で気持ちを切らずに同じ目標に向かって戦えたことを嬉しく思います。また、この大会で最後まで応援や指導をしてくださった先生やコーチ、家族、後輩の温かみを感じました。コロナ前と同じ環境の中、全国総体の舞台に立ち、3年の仲間やチームのみんなと最後まで戦い抜いたことは、3年間の高校生活で1番の思い出となりました。頑張って最後までやり抜いた経験を生かし、これから受験勉強を頑張っていこうと思います。

(3-6 小林 千華)



2 書道部〔全国高等学校総合文化祭書道部門〕

私は、8月に鹿児島県で開催された、全国高等学校総合文化祭書道部門に参加しました。

全国総文祭に出場するために、顧問の石川富重先生にたくさんアドバイスを頂き、何枚も一筆一筆集中して書き上げました。そのため、全国総文祭出場が決まった時、とても嬉しかったです。

私の今大会の目標は、去年を超えることでした。私は、去年の東京大会にも出場しましたが、出場できたことに満足し、賞は取れたらいいなぐらいの気持ちでした。しかし、今年は二度目の出場なので、賞を取ることを目標に掲げました。賞の発表はとても緊張しました。結果は、特別賞でした。自分の名前が呼ばれた時、とても嬉しかったです。

私は、全国総文祭を通して、目標を立てて何かに取り組むことの大切さを感じることができました。この経験を、今後生かしていきたいです。

(3-K 石川 愛加)



3 文芸部〔全国高等学校総合文化祭文芸部門〕

私は、8月1日～8月3日の3日間、全国高等学校総合文化祭の文芸部門に参加しました。

1日目は文学研修を行いました。私が参加した短歌部門は霧島コースで、棕鳩十文学記念館や霧島自然ふれあいセンター、霧島神宮に行きました。

2日目は部門別交流会・分科会に参加しました。自分と同じように創作活動をしている人たちと交流ができたり、講師の先生に短歌を作るうえで大事なことを教えていただいたりしました。午後の歌会では、いろいろな人と解釈の違いを楽しむことができました。

3日目は、報告会の後、記念講演を聞きました。普段はなかなか知ることのできない編集のお仕事について知ることができました。

総文祭に参加して、生まれた場所や育った場所が違う人、感じ方や考え方の違う人たちと交流したことで、以前よりも視野が広がったように感じます。この経験を活かし、今後も創作活動に励んでいきたいと思います。

(2-2 柳橋 里音)



4 文芸部〔関東地区高等学校文芸大会〕

8月18日、山梨県で開催された関東地区高校生文芸大会（俳句部門）に参加しました。

まずは、講演会で山梨県出身の俳人・飯田蛇笏に関するお話を聞きました。講演会はとても楽しく、緊張が和らぎました。

昼食後、分科会が行われました。私は第一分科会に参加し、各自が事前に提出した作品を用いて、

句会を行いました。思わずクスッと笑ってしまうような作品や、とても共感のできる作品などがありました。そして、選んだ作品に対する自分とは違う解釈を聞いたり、他の人から見た自分の作品の感想や解釈を聞くことができ、とても充実した時間となりました。

そして、第一分科会では2つ提出した作品の片方が最優秀賞（分科会賞）に選ばれ、もう片方の作品も撰者の先生により、優秀賞に選んでいただきました。とても嬉しいことですが、この結果に満足せず、これからも頑張りたいと思います。

（2－2 柳橋 里音）

